

土地活用ハンズオン支援事業 選定結果について

復興庁では、被災地において住宅再建などのために造成した土地や防災集団移転促進事業の移転元地等を復興まちづくりのために有効に活用することが課題となっていることを踏まえ、土地活用を進める際の地域の個別課題に対して、職員が現場に出向き、きめ細かく対話・サポートするハンズオン支援を行うこととしております。

その一環として、今年度の復興庁調査費を活用した支援の対象を下記のとおり選定しましたので結果を公表します。

記

1. 支援対象団体 9団体（詳細は別紙参照）

【資料】

- 別紙 土地活用ハンズオン支援事業（復興庁調査費活用）支援対象団体

【参考】

- 復興庁HP「土地活用ハンズオン支援の公募について」
<https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat1/sub-cat1-15/20180426172452.html>

【本件連絡先】

復興庁 インフラ利活用班／復興知見班 岩崎、高口
TEL : 03-6328-0233

土地活用ハンズオン支援事業（復興庁調査費活用） 支援対象団体

注）各団体の取組内容は検討過程で変更となることがあります。

1. 「地元商工会等と連携した魅力ある中心市街地像の検討」

<支援対象> 岩手県山田町

<取組概要> 地元商工会等と連携し、住民参画により「まちなかキャンプ」を軸とした実証実験を実施し、地域の魅力となるような造成地の活用アイデアの具体化や事業主体の検討等に取り組む。

2. 「自然湧水を活用した水産業等の事業スキームの検討」

<支援対象> 岩手県大槌町

<取組概要> ギンザケ・トラウトサーモン等の「おおつち湧水ブランド」の構築を念頭に、マーケティング調査の実施や施設整備に係る課題等を整理し、移転元地の自然湧水を活用した土地利用方策を検討する。

3. 「友好都市と連携した中心市街地の活性化による先導的土地利活用の検討」

<支援対象> 岩手県陸前高田市

<取組概要> まちの顔となる造成地の中心市街地活性化や移住定住の促進を目的に、復興を通じて得た他自治体とのネットワークを活かしながら、民間の自発的な土地利活用を先導し、魅力ある商店街づくりを検討する。

4. 「にぎわい再生に向けた土地の集約・活用手法の検討」

<支援対象> 宮城県気仙沼市

<取組概要> 市街地を形成する造成地の活用に向け、行政と不動産事業者等の民間が連携したプラットフォームを構築し、官民連携による土地活用の促進方策を検討する。

5. 「離半島部の持続可能なエリアマネジメントの確立に向けた検討」

- <支援対象> 一般社団法人 おがつはなものがたり 雄勝花物語 及び宮城県石巻市
- <取組概要> 人口減少が進む雄勝地域において、移転元地での農業系の土地利用による持続可能なエリアマネジメントの仕組みの構築を実証的に検討する。

6. 「住民との協働による長期的な森づくりの検討」

- <支援対象> 一般社団法人ウィーアーワン きたかみ 北上（宮城県石巻市）
- <取組概要> 北上地域の本来の美しい景観を取り戻すため、移転元地を対象とした「平地の森づくり」活動により、地域自然環境の再発見、関係人口の構築、住民同士の協働を促進して地域活性化を図る。

7. 「観光農園としての活用に向けた土地の集約化等の検討」

- <支援対象> 宮城県東松島市
- <取組概要> 観光農園の構想実現に向け、移転元地等の効率的な土地集約の進め方や、事業運営・維持管理手法を含めた集約後の活用プランの具体化を検討する。

8. 「移転元地の活用・維持管理の検討」

- <支援対象> 福島県浪江町
- <取組概要> 未活用となっている移転元地の活用や持続可能な維持管理の方向性を検討する。

9. 「移転元地の緑化を念頭においた活用・維持管理の検討」

- <支援対象> 福島県富岡町
- <取組概要> 未活用となっている移転元地の緑化を念頭に、活用や持続可能な維持管理の方向性を検討する。